

2016年8月1日

香川大学医学部附属病院検査部で検査をされた方へ (臨床研究に関する情報)

当院では、以下の臨床研究を実施しております。この研究は、研究用に保管された検体及び通常の診療で得られる検査結果などの診療情報を用いて行います。このような研究は、厚生労働省・文部科学省の「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」(平成26年文部科学省・厚生労働省告示第3号)の規定により、研究内容の情報を公開し、研究対象となる方等が拒否できる機会を保障することが必要とされております。この研究に関するお問い合わせ、拒否される場合などがありましたら、以下の連絡先・相談窓口へご照会ください。研究への検体及び診療情報の利用を拒否された場合も不利益を受けることはありません。また、この研究については、香川大学医学部倫理委員会の審議にもとづく医学部長の許可を得ています。

[研究課題名] DダイマーおよびFDP試薬の基礎的、臨床的評価

[研究機関の長] 香川大学医学部長

[研究責任者名・所属] 西谷 真里 検査部 臨床検査技師

[研究の目的] 私たちの体のどこかで出血が起こると、まず血小板が集まって固まり、傷口を塞いで出血を止め、次にフィブリノゲンがフィブリンという物質に変わって、血小板の隙間などを埋め、傷口を塞いで止血をします。このフィブリンによって傷口が止血されることは、体にとって有効なのですが、このまま傷口に存在し続けると、血流を阻害することになり、体にとって有害になってしまいます。そこで、そうならないためにプラスミンという酵素が働きだし、血液凝固因子であるフィブリンを溶解していきます。この現象を線溶現象(フィブリン溶解現象)といい、そのとき分解された物質がFDP(フィブリン分解産物)です。そしてその分解される過程で、FDPは大きく分けて4種類の姿に変わっていきませんが、その一つがDダイマーです。

FDP、Dダイマーはともに、この線溶現象(フィブリン溶解現象)を調べる検査です。体の中のどこかに血栓ができていれば線溶現象が亢進し、FDP、Dダイマーが高い値を示します。

今回、株式会社LSIメディエンスより新しいDダイマー、FDPを測定する試薬が発売され、その有用性について報告されています。当検査部でこれらの検査を実施している分析装置でこの試薬を使用できるかどうか、またこれらの試薬の有用性について確認します。対象検体は日常診療において採血され検査された残検体です。その他、血液検査の結果やカルテ情報も参照し比較します。この研究のために新たに採血をお願いすることはありません。

[研究の方法]

○対象となる患者さん

平成28年7月1日から平成30年12月31日の間に、止血凝固検査のために採血された患者さん

○利用する検体・診療情報

検体：血液

診療情報：診断名、年齢、性別、身体所見、検査結果(血液検査、画像検査)

この研究について、研究計画や関係する資料、ご自身に関する情報をお知りになりたい場合は、他の患者さんの個人情報や研究全体に支障となる事項以外はお知らせすることができます。

研究に利用する患者さんの個人情報に関しては、お名前、住所など、患者さん個人を特定できる情報は削除して管理いたします。また、研究成果は学会や学術雑誌で発表されますが、その際も患者さんを特定できる個人情報は利用しません。

[連絡先・相談窓口]

香川県木田郡三木町池戸 1750-1

香川大学医学部附属病院検査部 西谷 真里

電話 087-898-5111(内線 3675)